

■ CEレポート わだい 古代史における土木遺産と古代土木史 縄文の土木—土木技術の源流を探る—(CIVIL ENGINEERING HISTORY in JOMON PERIOD)

温故知新という言葉があるように、土木史を知ることは土木技術者にとって重要なことだと思います。今回の土木史の話は興味深く読ませて頂きました。縄文時代の遺跡は、穴ばかりが発掘されるということですが、色々と想像力をかき立てられておもしろそうに感じました。土木的な話がちょっと少なかったのが残念でしたが、他の時代の土木史も知りたいと思いました。

(所属: JFE技研 氏名: 林 正宏)

土木学会誌よりも、雑誌 Newton に近い内容の記事であり、なかなか面白かったと思う。今後も継続して掲載して頂きたい。

(所属: 清水建設 氏名: 加藤貴代)

大変興味深く読ませていただきました。遺跡発掘を通して、その時代の人々の生活様式や社会の仕組みを考察する。考古学では、当たり前の手法であり、ここでは、今から1万3000年前の縄文時代の遺跡からみた人口推移・人口分布・生活様式などについて紹介されている。土木工学では、これほど古い時代の土木史を考えた例は少ない。文章を読むことで、縄文時代の遺跡からも土木の歴史を知ることができ、古代の人々の生活そのものが「土木」と深く関係していたことが再認識される。間口の広さは土木の特徴でもあり、今後も、このような企画で読者を楽しませて欲しい。

(所属: 香川大学 氏名: 石塚正秀)

知的好奇心をかきたててくれ、かつ土木とはなんぞやという基本命題について考えさせてくれる素晴らしい記事だと思いました。今回の縄文時代に引き続き、今後も弥生時代、古墳時代と時代を追って企画を継続していく予定とのことですので、今後も楽しみにしています。

(所属: 地球環境戦略研究機関 氏名: 小嶋公史)